

2020年 6月 9日

阪神高速道路株式会社

入札説明書(技術提案書等含む)及び設計図書等に対する質問回答書

工事名 : 豊崎工区換気所新築及び開削トンネル・下部工事	
質問提出日:2020年 4月27日	
前回質問回答日:2020年 5月 8日	
質問回答日:2020年 6月 9日	
質 問	回 答
番号1 共通仮設費(率) 現場管理費(率) 土木工事の主たる工種区分は「開削トンネル工事」と考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は主たる工種区分をご教示ください。	番号1 金額を記載しない設計書 11頁に記載のとおりです。
番号2 共通仮設費(率) 現場管理費(率) 共通仮設費(率)及び現場管理費(率)の地域補正は「市街地(DID補正)(2)」と考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は、適用されている補正の施工地域区分をご教示ください。	番号2 ご質問のとおりとお考えください。
番号3 質問回答書(4月15日) 番号4 「鋼矢板Ⅲw型については(中略)賃料を計上しています」とご回答いただきましたが、「設計書 内訳書-167」には「撤去しない埋設」、「特記仕様書7-4-2」には「現場存置を考えている」と記載されています。「現場に存置する場合」の賃料の考え方についてご教示ください。	番号3 ご指摘のとおり、質問回答書(4月15日)の番号4の回答に誤りがありましたので、以下のとおりに修正いたします。 「標準案では現時点で鋼矢板Ⅲw型については市中価格(中古品)を計上しています。」
番号4 特記仕様書 別紙-1 「概略工程表(参考)」に「工事用栈橋(延伸部出路)及び(2期部入路)」の設置及び撤去の施工時期が記載されておりません。施工時期をお示しください。	番号4 標準案では、工事用栈橋の設置及び撤去時期について下記のとおり考えています。 【延伸部出路】設置時期:擁壁土留工完了後、撤去時期:mU2擁壁工完了後 【2期部入路】設置時期:擁壁土留完了後、撤去時期:TU4擁壁完了後

質 問	回 答
番号5 設計書 内訳書P-343 詳細設計(開削トンネル工) 「1層2径間函体工設計 本線部」の設計数量は「4断面」と記載されていますが、形状、寸法、延長、土被り等の設計積算条件が判読できる資料をご提示ください。	番号5 「1層2径間函体工設計 本線部」の詳細設計は、非対称のRCラーメンで積算しており、延長135mを4つの構造ブロックにしているため4断面を計上しております。 具体的な工法等は検討中であり、工事契約締結後概略設計成果として提示する予定です。
番号6 設計書 内訳書P-343 詳細設計(開削トンネル工) 「杭基礎詳細設計 本線部 1層2径間函体」の設計数量は「1基」と記載されていますが、杭種、形状、配置・配列、本数等の設計積算条件が判読できる資料をご提示ください。	番号6 「杭基礎詳細設計 本線部 1層2径間函体」の詳細設計は、番号5に示す4ブロックのうち1ブロック(延長約20m)を対象とした杭基礎の設計として計上しております。 具体的な工法等は検討中であり、工事契約締結後概略設計成果として提示する予定です。
番号7 設計書 内訳書P-344 詳細設計(開削トンネル工) 「地盤改良詳細設計 本線部」で想定されている地盤改良の種別、範囲等の設計積算条件が判読できる資料をご提示ください。	番号7 「地盤改良詳細設計 本線部」の詳細設計は、番号5に示す4つのブロックのうち、番号6に示す1ブロックを除く3ブロック(約115m)を対象として計上しています。 具体的な工法等は検討中であり、工事契約締結後概略設計成果として提示する予定です。
番号8 設計書 内訳書P-344 詳細設計(開削トンネル工) 「土留工設計 本線部」の設計数量は「1断面」と記載されていますが、土留壁の種別、土留形式、掘削深さ等の設計積算条件が判読できる資料をご提示ください。	番号8 「土留工設計 本線部」の詳細設計は、地盤高が一定でない箇所における、開削幅20m、深さ10m以内の切梁・連続式の仮土留めを弾塑性法で延長13.5mを設計することを想定して積算しています。 具体的な工法等は検討中であり、工事契約締結後概略設計成果として提示する予定です。
番号9 設計書 内訳書P-343 詳細設計(開削トンネル工) 「杭基礎詳細設計 本線部 1層2径間函体」及び「杭基礎詳細設計 ③ランプ 箱式擁壁」で「常時・耐震設計」と記載されていますが、「設計業務等標準積算基準書 7-6 一般構造物基礎工」では耐震設計の歩掛についての記述はありません。「耐震設計は本歩掛に含まれている」とお考えでしょうか。そうでない場合は、準拠された基準をご教示ください。	番号9 耐震設計は本歩掛に含まれているとお考え下さい。
番号10 設計書 内訳書P-343 詳細設計(開削トンネル工) 「U型擁壁詳細設計」で「常時・耐震設計」と記載されていますが、「設計業務等標準積算基準書 7-2-5 U型擁壁詳細設計」では耐震設計の歩掛についての記述はありません。「耐震設計は本歩掛に含まれている」とお考えでしょうか。そうでない場合は、準拠された歩掛をご教示ください。	番号10 耐震設計は本歩掛に含まれているとお考え下さい。
番号11 設計書 内訳書P-343 詳細設計(開削トンネル工) 「箱式擁壁」は「設計業務等標準積算基準書 第7節 一般構造物設計」には該当する歩掛はありません。準拠された歩掛をご教示ください。	番号11 箱式橋台の歩掛を準用しております。

質 問	回 答
番号12 設計書 内訳書-345 詳細設計(橋梁下部工) 規格欄に「常時設計」「耐震設計」の記載がありません。設計法について区分をご教示ください。	番号12 橋梁下部工の詳細設計については、現時点では「常時設計」を考えています。 なお、「耐震設計(動的解析)」を追加した場合は設計変更します。 また、金額を記載しない設計書 内訳書P-345について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号13 設計書 内訳書P-344 詳細設計(橋梁下部工) 「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き P-244 仮土留工詳細設計」の「積算条件 3.」に「深さ15m以下の場合は(中略)慣用計算法による」と記載されています。今回工事の掘削深さは図面等の設計書より全区間10m以下と判読できます。今回は「弾塑性法による設計は行わない」と考えてよろしいでしょうか。ご教示下さい。	番号13 設計書P344(内訳書第181号)詳細設計費(開削トンネル工)の土留工設計に対する質問と解釈して回答します。 土留工の設計にあたっては、当社設計基準 第3部 構造物設計基準 第7編開削トンネル仮設工に基づき、開削トンネルの場合は深さ15m以下の場合でも弾塑性法による設計を行うものと考えています。
番号14 質問回答書(4月15日)番号1 「函体工設計」は「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引きによる」とご回答いただきましたが、 ①歩掛は「P-212 RC地下ラーメン詳細設計」を適用されていると考えて良いのでしょうか。 ②設計法は「許容応力度設計法」「限界状態設計法」のいずれをお考えでしょうかご教示願います。	番号14 ①ご質問の通りとお考え下さい。 ②設計法は「許容応力度法」としてお考え下さい。
番号15 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) 「橋台工」の歩掛は「設計業務等標準積算基準書 8-2-4橋台工」の「(2) 2)逆T式橋台」を適用されていると考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は準拠した歩掛をご教示ください。	番号15 ご質問のとおりとお考えください。
番号16 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) 「橋脚基礎工(井筒)」の歩掛は「設計業務等標準積算基準書 8-2-2橋脚基礎工」の「(2) 5)鋼管矢板ウェル」を適用されていると考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は準拠した歩掛をご教示ください。	番号16 ご質問のとおりとお考えください。
番号17 設計書 内訳書P-343～344 詳細設計(開削トンネル工) 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) (開削トンネル工)の摘要欄に「(概略設計完了後)」と記載されており、(橋梁下部工)の摘要欄には「(予備設計完了後)」と記載されています。 今回の(開削トンネル工)の詳細設計では、「予備設計」と「詳細設計」を行うとお考えでしょうか。ご教示願います。	番号17 今回の開削トンネル工の詳細設計では予備設計は行わず詳細設計を行うことを考えております。

質 問	回 答
番号18 A-18 開口部分に取付くステンレスバリカーのH寸法をご教示ください。	番号18 金額を記載しない設計書P.80に記載の通り、H=850とお考え下さい。
番号19 A-18 開口部分に取付く着脱式チェーンの仕様をご教示ください。	番号19 金額を記載しない設計書P.80に記載の通り、「ステンレス製 5Φ」とお考え下さい。
番号20 A-18 A-19 平面図より、2～4階の機械基礎の寸法が不明ですので、ご教示ください。	番号20 W1350×D700×H(300(嵩上げ)+100(周囲立上がり))とお考え下さい。
番号21 A-18 A-19 又、2～4階の機械基礎の廻りの床、立上りについて、下記の項目をご教示ください。 ①平面図で軽量コンクリートH300嵩上げの範囲に入っていないませんが、機械基礎下にH300嵩上げは必要と考えて宜しいでしょうか。 ②立上りより内側の床仕上は塗膜防水 X-2と考えて宜しいでしょうか。 ③立上りのW、H寸法をご教示ください。 ④立上りの天端の仕上、壁の仕上(内側、外側別)をご教示ください。	番号21 ①軽量コンクリートの嵩上げ(H=300)は必要とお考え下さい。 ②塗膜防水 X-2とお考え下さい。 ③詳細設計にて検討する予定です。 ④詳細設計にて検討する予定です。
番号22 A-07 建築工事特記仕様書(7)より、19内装工事 12断熱材に断熱材現場発泡工法の施工箇所に空調設置室の外壁面と記載がありますが、空調をどこに設置するのかが分からない為、断熱材の範囲が不明です。外壁面の断熱材の範囲をご教示ください。	番号22 空調設置室については、機械図面受M-05～07を参照して下さい。
番号23 A-16 A-17 確認ですが、内部仕上表 4階通信機械室のOAフロア下に施工する防塵塗床のメーカー、品番は凡例記号表の参考メーカーリストに記載されている防塵塗床 ABC商会 ケミクリートEPカラーに倣って宜しいでしょうか。	番号23 ご質問のとおりとお考え下さい。
番号24 A-18 2階発電室の下記の部分の仕上、詳細をご教示ください。	番号24 上記の番号21の回答と同じです。

質 問	回 答
番号25 A-18 A-19 Y4～Y5通間の煙突道部分の床、壁、天井仕上をご教示ください。	番号25 コンクリート打放し補修とお考え下さい。
番号26 A-18 2階Y4～Y5通間の煙突道部分の床からの排水経路、仕様、詳細をご教示ください。	番号26 排水経路については、金額を記載しない設計書p.84「屋根及びとい(受電所)」に示す「煙突排水用 樋(呼び樋)」を経由して、直近の樋に接続することを考えています。 詳細については詳細設計にて検討する予定です。
番号27 A-16 床VT-1のメーカー品番をご教示ください。	番号27 メーカー・品番の指定はございません。
番号28 A-16 壁化粧珪酸カルシウム板のメーカー品番をご教示ください。	番号28 メーカー・品番の指定はございません。
番号29 A-16 壁化粧珪酸カルシウム板出隅材の仕様、寸法をご教示ください。	番号29 出隅材の仕様、寸法については、詳細設計での検討となります。
番号30 A-17 床汚垂石(タイル)有無、仕様、メーカー品番、W寸法をご教示ください。	番号30 床汚垂石は無しとお考え下さい。
番号31 A-16 便所化粧鏡の枠の有無、仕様、仕上をご教示ください。	番号31 枠は無しとお考え下さい。

質 問	回 答
番号32 A-18 便所洗面カウンターの仕様、下部収納の有無、仕様、H寸法をご教示ください。	番号32 洗面カウンターは無しとお考え下さい。
番号33 A-17 SK掃除用具掛けの仕様、仕上をご教示ください。	番号33 「L=600 sus製 フック4か所程度」とお考え下さい。
番号34 A-17 便所トイレブース、小便器～洗面間隔板のメーカー品番、H寸法をご教示ください。	番号34 メーカー・品番の指定はございません。また、金額を記載しない設計書p.98「ユニット及びその他(受電所)」に記載のとおり、H=2000とお考え下さい。
番号35 A-20 光触媒塗装の仕様を御指示下さい。 又、参考品番がありましたらご教示ください。	番号35 メーカー・品番の指定はございません。
番号36 A-16 ピロティー軒天アルミスパンドレル軽量鉄骨下地は耐風圧仕様として宜しいでしょうか。	番号36 ご質問のとおりと考え下さい。
番号37 A-19 煙突及び煙突カバーの詳細が不明ですので、ご教示ください。	番号37 煙突については、別途工事にて設置する予定です。 煙突カバーについては、建築設計図面 受A-24に示すとおりとお考え下さい。
番号38 A-17 A-18 平面図より、地下1階トンネル消火ポンプ室に記載されている側溝について、以下の項目をご教示ください。 ①立上りの天端の仕上、ポンプ室側の立上り壁の仕上をご教示ください。 ②内部仕上表の備考欄に記載されている排水目皿の数量は、1スパンに2か所と考えて宜しいでしょうか。 ③又、排水目皿がある為、排水パイプが必要と思われます。排水パイプの仕様、径をご教示ください。 ④トンネル消火ポンプ室の下が共同溝の為、下に排水できません。排水パイプのL寸法、排水経路をご教示ください。	番号38 ①詳細設計にて検討する予定です。 ②ご質問のとおりとお考え下さい。 ③詳細設計にて検討する予定です。 ④詳細設計にて検討する予定です。

質 問	回 答
番号39 A-17 内部仕上表より、共通 EPSの備考欄にグレーチング嵩上げH300と記載がありますが、仕様、詳細等が不明ですので、ご教示ください。 又、グレーチング嵩上げの範囲は2階～4階のEPSと考えて宜しいでしょうか。	番号39 仕様については、金額を記載しない設計書P.87に記載の通りとお考え下さい。嵩上げ範囲は2～4階のEPSとお考え下さい。 詳細については、「建築工事設計図面 受A-34」を追加します。
番号40 A-18 平面図より、地下1階EPSの排水溝に付く排水パイプのL寸法、排水経路をご教示ください。	番号40 上記の番号38⑥の回答と同じです。
番号41 A-16 A-18 平面図(1)において、平面凡例にある人通孔上部のSUS製タラップは参考メーカーリストのSUS製タラップ 福西鋳物 SUS製φ22 W400と考えて宜しいでしょうか。	番号41 ご質問のとおりとお考え下さい。
番号42 0 設備開口切込補強の算出のため、天井の寸法毎のか所数をご教示ください。	番号42 設備開口補強の算出については、詳細設計での検討となります。
番号43 A-18 階段室の手摺壁、壁付手摺の範囲、断面図等の詳細をご教示ください。	番号43 壁付け手摺の取付範囲は階段片側(手摺壁側)すべてとお考え下さい。 手摺壁、壁付手摺の詳細は詳細設計にて検討する予定です。
番号44 A-18 階段室の踏面はW=250程度、蹴上はH=190程度とし、その仕上はコンクリート金縷素地と考えて宜しいでしょうか。	番号44 ご質問のとおりとお考え下さい。
番号45 A-18 風洞、共同溝のタラップ(背かご付)の部材寸法、詳細をご教示ください。	番号45 部材寸法については、金額を記載しない設計書p.87「金属(受電所)」を参照して下さい。詳細については、「建築工事設計図面 受A-34」を追加します。

質 問	回 答
番号46 0 平面図に2階～4階X6～7通Bの吹抜け部分にMHの記載があります。MH(マシンハッチ)が取付くのならば仕様、寸法をご教示ください。	番号46 2階～4階の吹抜け部分へのMHの設置は不要です。
番号47 A-16 参考メーカーリストにグレーチング 使用部位:風洞吹抜けと記載がありますが平面図にグレーチングの記載がありません。グレーチングの取付範囲をご教示ください。	番号47 「建築工事設計図面 換A-18」を参照して下さい。

豊崎工区換気所新築及び開削トンネル・下部工事 正誤表

5月8日付で回答いたしました受付番号31の質問回答書につきまして、
番号12の回答内容に下記のとおり誤記載がありましたので再回答いたします。

(正)

質 問	回 答
番号12 設計書 内訳書-345 詳細設計(橋梁下部工) 規格欄に「常時設計」「耐震設計」の記載がありません。設計法について区分をご教示ください。	番号12 橋梁下部工の詳細設計については、現時点では「常時設計」を考えています。 なお、「耐震設計(動的解析)」を追加した場合は設計変更します。 また、金額を記載しない設計書 内訳書P-345について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号13 設計書 内訳書P-344 詳細設計(橋梁下部工) 「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き P-244 仮土留工詳細設計」の「積算条件 3.」に「深さ15m以下の場合は(中略)慣用計算法による」と記載されています。今回工事の掘削深さは図面等の設計書より全区間10m以下と判読できます。今回は「弾塑性法による設計は行わない」と考えてよろしいでしょうか。ご教示下さい。	番号13 設計書P344(内訳書第181号)詳細設計費(開削トンネル工)の土留工設計に対する質問と解釈して回答します。 土留工の設計にあたっては、当社設計基準 第3部 構造物設計基準 第7編開削トンネル仮設工に基づき、開削トンネルの場合は深さ15m以下の場合でも弾塑性法による設計を行うものと考えています。
番号14 質問回答書(4月15日)番号1 「函体工設計」は「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引きによる」とご回答いただきましたが、 ①歩掛は「P-212 RC地下ラーメン詳細設計」を適用されていると考えて良いのでしょうか。 ②設計法は「許容応力度設計法」「限界状態設計法」のいずれをお考えでしょうかご教示願います。	番号14 ①ご質問の通りとお考え下さい。 ②設計法は「許容応力度法」としてお考え下さい。
番号15 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) 「橋台工」の歩掛は「設計業務等標準積算基準書 8-2-4橋台工」の「(2) 2)逆T式橋台」を適用されていると考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は準拠した歩掛をご教示ください。	番号15 ご質問のとおりとお考えください。
番号16 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) 「橋脚基礎工(井筒)」の歩掛は「設計業務等標準積算基準書 8-2-2橋脚基礎工」の「(2) 5)鋼管矢板ウェル」を適用されていると考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は準拠した歩掛をご教示ください。	番号16 ご質問のとおりとお考えください。
番号17 設計書 内訳書P-343～344 詳細設計(開削トンネル工) 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) (開削トンネル工)の摘要欄に「(概略設計完了後)」と記載されており、(橋梁下部工)の摘要欄には「(予備設計完了後)」と記載されています。 今回の(開削トンネル工)の詳細設計では、「予備設計」と「詳細設計」を行うとお考えでしょうか。ご教示願います。	番号17 今回の開削トンネル工の詳細設計では予備設計は行わず詳細設計を行うことを考えております。

※番号12の回答を修正しました。

(誤)

質 問	回 答
番号12 設計書 内訳書-345 詳細設計(橋梁下部工) 規格欄に「常時設計」「耐震設計」の記載がありません。設計法について区分をご教示ください。	番号12 常時設計及び耐震設計の双方を考えています。 なお、金額を記載しない設計書 内訳書-345について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号13 設計書 内訳書P-344 詳細設計(橋梁下部工) 「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き P-244 仮土留工詳細設計」の「積算条件 3.」に「深さ15m以下の場合は(中略)慣用計算法による」と記載されています。今回工事の掘削深さは図面等の設計書より全区間10m以下と判読できます。今回は「弾塑性法による設計は行わない」と考えてよろしいでしょうか。ご教示下さい。	番号13 設計書P344(内訳書第181号)詳細設計費(開削トンネル工)の土留工設計に対する質問と解釈して回答します。 土留工の設計にあたっては、当社設計基準 第3部 構造物設計基準 第7編開削トンネル仮設工に基づき、開削トンネルの場合は深さ15m以下の場合でも弾塑性法による設計を行うものと考えています。
番号14 質問回答書(4月15日)番号1 「函体工設計」は「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引きによる」とご回答いただきましたが、 ①歩掛は「P-212 RC地下ラーメン詳細設計」を適用されていると考えて良いのでしょうか。 ②設計法は「許容応力度設計法」「限界状態設計法」のいずれをお考えでしょうかご教示願います。	番号14 ①ご質問の通りとお考え下さい。 ②設計法は「許容応力度法」としてお考え下さい。
番号15 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) 「橋台工」の歩掛は「設計業務等標準積算基準書 8-2-4橋台工」の「(2) 2)逆T式橋台」を適用されていると考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は準拠した歩掛をご教示ください。	番号15 ご質問のとおりとお考えください。
番号16 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) 「橋脚基礎工(井筒)」の歩掛は「設計業務等標準積算基準書 8-2-2橋脚基礎工」の「(2) 5)鋼管矢板ウェル」を適用されていると考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は準拠した歩掛をご教示ください。	番号16 ご質問のとおりとお考えください。
番号17 設計書 内訳書P-343～344 詳細設計(開削トンネル工) 設計書 内訳書P-345 詳細設計(橋梁下部工) (開削トンネル工)の摘要欄に「(概略設計完了後)」と記載されており、(橋梁下部工)の摘要欄には「(予備設計完了後)」と記載されています。 今回の(開削トンネル工)の詳細設計では、「予備設計」と「詳細設計」を行うとお考えでしょうか。ご教示願います。	番号17 今回の開削トンネル工の詳細設計では予備設計は行わず詳細設計を行うことを考えております。

(正)

345

詳細設計費（橋梁下部工）内 訳 書						
(1 式 当 り)						
内訳書ー 182						
細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋台基礎工（場所打杭）	2期部入路:A2 常時設計	基	1			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋台工	2期部入路:A2 常時設計	基	1			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（井筒）	延伸部入路:P1, P2, P3 延伸部出路:P3, P4, P5 常時設計	基	6			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（場所打杭）	(陸上部) 2期部入路:P1, P2, P3, P4, P5 常時設計	基	5			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（場所打杭）	(堤体内) 延伸部入路:P4、延伸部出路:P1 常時設計	基	2			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（場所打杭）	(河川内) 延伸部出路:P2 常時設計	基	1			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
張出式橋脚工	延伸部入路:P1, P2, P3, P4 延伸部出路:P1, P2, P3, P4, P5 常時設計	基	9			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
壁式橋脚工	2期部入路:P1, P2, P3, P4, P5 常時設計	基	5			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)

※規格欄から耐震設計を削除しました。345 阪神高速道路株式会社

(誤)

345

詳細設計費（橋梁下部工）内 訳 書						
(1 式 当 り)						
内訳書ー 182						
細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋台基礎工（場所打杭）	2期部入路:A2	基	1			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋台工	2期部入路:A2	基	1			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（井筒）	延伸部入路:P1, P2, P3 延伸部出路:P3, P4, P5	基	6			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（場所打杭）	(陸上部) 2期部入路:P1, P2, P3, P4, P5	基	5			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（場所打杭）	(堤体内) 延伸部入路:P4、延伸部出路:P1	基	2			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
橋脚基礎工（場所打杭）	(河川内) 延伸部出路:P2	基	1			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
張出式橋脚工	延伸部入路:P1, P2, P3, P4 延伸部出路:P1, P2, P3, P4, P5	基	9			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)
壁式橋脚工	2期部入路:P1, P2, P3, P4, P5	基	5			設計計画、設計計算、設計製図、数量計算、照査費を含む(予備設計完了後)